

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1461
施設名	あそびの森ゆう
施設所在地	世田谷区梅丘1-31-36
法人名	社会福祉法人若竹会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

ぼくたち・わたしたちのまちの「あそびのたね」をさがしにいこう～街に出かけよう～

<テーマの設定理由>

子どもたちを取り巻く地域資源に対して、子どもが自ら興味を持ち、繰り返し積極的に関わっていくことによって、自らの力で自分たちの世界を拡げていく体験をしてもらいたいという願いとともに、地域の良さに気づき、愛着を持ってもらいたいから、このテーマを設定した。商店街や周辺施設に出かけていくことによって、目にするものや地域の方々とのふれ合いややり取りを体験し、遊びの拡がりにつなげていきたい。

2. 活動スケジュール

令和6年10月から1月にかけて実施

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

商店街で旬の食材に出会ったり、季節ならではのディスプレイを見たりすることによって、活動への興味につながることを期待しながら、天気の良い日は積極的に園外に出かけていき、その中で商店街を訪れるようにした。また、調理や行事に関する興味がさらに広がっていくよう、iPad Airを用意し、子どもとともに知りたいことや料理の作り方等を検索できるようにしていった。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・10月…芋もちを作ろう（ももぐみ：2歳児）

八百屋やスーパーにさつまいもや焼き芋がたくさん並んでいるのに気づき、子どもと保育者が相談して、「芋もち」を作ることに。3グループに分かれて、それぞれがサツマイモを買ってきて持ち寄り、給食室の協力をいただきながらホットプレートを使い調理、喫食した。



・10月…ハロウィンにでかけよう（ももぐみ：2歳児）

ハロウィンにちなんだ製作をしている時に、仮装をして園外に出かけようという声があがった。どのようにやってみたいのか、子どもの声を聞いてみると、一般的なお菓子をねだりに行くハロウィンではなく、自分たちが作ったお菓子（の製作物）を、お店に配りに行きたいということになり、商店街の店や、交流のあった豪徳寺保育園等へ行き、子どもなりに感謝を伝えてくる経験ができた。



・11月…ピザを作ろう（ももぐみ：2歳児）

10月に自分たちで調理して食べた経験から、また次も何か作りたいという意欲が高まり、ピザがいいという声が上がった。子どもと一緒に給食室に相談したところ、生地作りはお願いできることに。ソースやトッピングはどうすればいいのか、子どものアイデアを聞いたりiPadで調べたりして、買い物に行き、一人ひとりオリジナルのピザを調理、おいしくいただくことができた。



・12月…クリスマスケーキを作ろう（ももぐみ：2歳児）

これまで何度か調理を経験してきた子どもたちから、季節にちなんでクリスマスケーキも作りたいという声がたくさんあがる。子どもたちのイメージを聞き取ったり、近所のケーキ屋さんに行き、デコレーションに使うものを教えていただいたりしてからグループ毎に分担して買い物に行き、ケーキのデコレーションを経験した。



・12月…クッキーを作ろう（さくら・うめ・ふじぐみ：3・4・5歳児）

いつも、園のおやつのカリスマケーキに自分たちでデコレーションをしているけれど、手作りのクッキーを加えたら、さらに素敵なケーキになるのではという声があたり、子どもたちの中で気持ちが盛り上がった。給食室に相談したところ、砂糖は園にあるので、小麦粉とバターが必要と聞き、自分たちで買いに行き、それぞれが型抜きクッキーを作り、おいしくいただいた。



・12月…お正月飾りをさがしに行こう（ふじぐみ：5歳児）

最近、スーパー等でお正月飾りが売られていることがクラスで話題になり、年長児が園の代表で買いに行こう、という声があがり、商店街へ出かけた。事前にiPadでお正月飾りや注連縄について調べていたので、子どもたちには買いたい物のイメージがあったのだが、花屋にもスーパーにも思った物は売っていなかった。何度も行ったり来たりして、子どもたちで話し合った結果、玄関に飾るお飾りと鏡餅を選ぶことができた。



・1月…だるまの意味って？（さくら・うめ・ふじぐみ：3・4・5歳児）

3、4、5歳児で、近所の代田八幡神社に初詣に出かけたとき、色だるまが売っているのを見つけ、見に行くことに。神社の方に、色ごとに意味があり、願い事に合わせて選ぶといいということを教えていただき、子どもたちで話し合いながら、それぞれだるまを選んで買い、園に持ち帰り飾った。



<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・クッキング保育をするにあたって、自分たちの足で材料を買いに行くことによって、お世話になったお店の皆さんへの感謝の気持ちが自然と生まれた様子だった。ハロウィンでは、お店の方に「ありがとうをいいたい」と、自分たちでオリジナルのハロウィンの楽しみ方を考え出していた。

・買い物等でどれにするか、どれが一番よいか等を考える場面になると、一人ひとりが主役となった、とても真剣に考えている。自分がそれが好きだから、という意見だけでなく、「○○ぐみさんだったら、きっとこれ（を持ち帰ったら）よろこぶとおもうよ」等、クラスや園で待っている小さな子どもたちのことを思いやる、優しい気持ちが表れる言葉もたくさん聞かれた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・iPadで調べると、知りたいことがすぐに出てくるのは便利であるが、実際買い物に行ったりすると、検索したものと同じ物は意外と見つからなかったりする。そこから子ども同士の話し合いが始まったり、アイデアの出し合いが始まるきっかけとなるので、それも貴重な体験となった。

・ふだん、園外に出かけると「疲れちゃった」とご機嫌斜めになる子どもも、自分たちで決めた買い物をする時は一生懸命で、思い荷物も進んで持とうとしている。自分のやることを自分たちで決めることの大切さとすばらしさを感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1461
施設名	あそびの森ゆう
施設所在地	世田谷区梅丘1-31-36
法人名	社会福祉法人若竹会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

ぼくたち・わたしたちのまちの「あそびのたね」をさがしにいこう
～電車に乗って出かけよう～

<テーマの設定理由>

子どもたちを取り巻く地域資源に対して、子どもが自ら興味を持ち、繰り返し積極的に関わっていくことによって、自らの力で自分たちの世界を広げていく体験をしてもらいたいという願いとともに、地域の良さに気づき、愛着を持ってもらいたいから、このテーマを設定した。身近に目にする小田急線をはじめとした公共交通機関を活用し、乗り物についてや行き先で出会うものへの興味を広げていきたい。

2. 活動スケジュール

令和6年10月から令和7年3月にかけて実施

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

日々、園外へ出かけていく経験の中に、子どもたちが大好きな小田急線に乗る経験を加えていくことによって、明日も外へ出かけていきたいという意欲にもつながり、活動範囲の拡がりにもつながっていくこととなった。また小田急線の「もころん号」との出会いから、電車の運行状況への興味も膨らんできたため、用意したiPad Airを活用してダイヤを調べたり、世田谷線等他の交通機関への興味にもつながっていった。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・10月…みんなで電車に乗ってみたい(ももぐみ：2歳児、うめ・ふじぐみ：4・5歳児)
乗り物に興味のある子どもを中心に、小田急線に乗ってみたいという声があがる。純粋に電車に乗りたい子どもの他に、自動改札や点字ブロック、ホームドア等施設内の設備に興味のある子どもいたので、まずはみんなで駅へ行き、1区間乗ってみることから始めた。
家族と乗る時とは雰囲気が違って、ワクワクしたようだが、公共の場では静かにしたほうがいい等、考えるきっかけにもなった様子であった。



・12月…少し遠くに行ってみようね(ももぐみ：2歳児)
iPadで、子どもと一緒に区内の公園を探していると、遊具がたくさんある山下公園を見つけ、子どもたちの目が輝いた。大きなすべり台で遊んでみたいという気持ちが高まり、園からがんばって歩いて行った子どもたち。楽しく遊んだ後は少し疲れたので、大好きな小田急線に乗って帰園し、「また行きたいね」と大満足の様子であった。



・2月…もう一回行きたいな

暖かくなってきて、また山下公園に行きたいという気持ちが高まってきた。帰りに電車を使うとしても、やはり園からは遠いので、どうしたらたくさん遊べるか、子どもの考えを聞いてみると「おしたくをがんばってはやくする」「げんきに、はやくあるく」等のアイデアが聞かれた。年明けに新入園児を迎えており、その子は初めての経験であったが、友だちと一緒に長い距離をがんばって歩いていき、公園で思いきり楽しむことができた。



・3月…思い出作りに行こう（ふじぐみ：5歳児）

2月後半、プラネタリウム見学に行ったときに、小田急線の「もころん号」に出会い、それから356広場からもころん号が見えるかな、もころん号はいつ来るんだろう、と調べる子どもたち。路線図等にも興味が拡がり、卒園前にクラスで遠足に行こうと決まった。小田急線沿線で行ける場所を出し合い、クラス全員のやりたいことが叶うコースを決め、お弁当を持って藤子・F・不二雄ミュージアムを目指すことに。当日はあいにくの雪模様で、ミュージアム以外は思ったコースを回れず、長く話し合った結果、保育園に戻り、室内ピクニックをすることに。予定外の結果も、子どもたちで考えを出し合いすり寄せたことによって、満足のいく経験となった。



<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・帰りに電車に乗ろうか、と呼びかけると、それを励みに自分の足で歩こうとする意欲が高まり、全員元気に長い距離を歩いていた。

・もころん号に出会えるかどうかというワクワクが、外へ出かけたいという気持ちにつながり、楽しく園外へ出かけていくことができた。

・もころん号に出会えなかった時、「いつもころんにであえますか」「もころんのすきなものはなんですか」等の質問に、駅員さんが応じてくださって、思いがけず交流させていただくことができてありがたかった。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

電車への興味と行っても、子ども一人ひとりが着目する点は違って、乗り物に限らず、興味や学びは至るところにあることが分かった。

公共交通機関も、立派な地域資源である。積極的に活用することによって、子どもたちの「あそこへ行きたい」「あんなことをやってみたい」という好奇心や積極性がどんどん育っていく様子を感じた。